

つり環境ビジョン LOVE BLUE

放流事業を説明

2021年度以降も計画している全国各地での放流事業について説明と協力要請を行った。この会議にLOVE BLUE事業事務局が参加するの

海域栽培漁業推進協議



△毎載るまゝ？議　いわ書る量二五

第6回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議

は（公社）全国豊かな
海づくり推進協会の会員
県の行政、漁連（漁協）、
栽培漁業関係法人で組
織。同推進協会と水産庁
全国6海域で関係道府

。催により開催されて

会議は、全国の海域種苗放流等に關わる道府県水産担当者や試験場等の関係者が介する場であり、栽培技術等に関する研究や水産政策の予算などの説明もさ重要な機会となつて

LOVE BLUE事

における放流事業は、13年4月～17年度にし、放流効果を調査す
るため（公財）神奈川県漁業協会と連携し、神奈川県側の東京湾ダイ稚魚20万尾（5累計100万尾）を18年に於ける実績から「一的裁



域・資源量を基礎とした放流量の指針」をともに、栽培養殖を醸成することが踏まえる公共機関との信頼性を基礎にした背景を基礎にし、機関との連携・協力体制を確立する。一方で、放流量に利害関係があることから全国各地の公培事業である。

制を構築しながら、
の海域・資源量等を
えた、「釣り人の皆
喜んで頂ける、釣り
活用できる魚種」の
を各地で進めること
に。17年度中に、裁
判に関する中央団体
を同推進協会にLIO
VE-BLUE事業への
協力依頼を行い、翌18年
1月に開催された第3回
海域栽培漁業推進協議会
全国連絡会議に初めて参
加、以来毎年会議で各都
道府県の水産担当者や栽
培機関関係者らと交流を
図りながら放流事業への

A black and white photograph capturing a moment at the "National Traditional Sake Brewing Competition". In the foreground, several individuals wearing hats and aprons are gathered around a massive, dark, cylindrical object, possibly a large wooden barrel or a traditional brewing vessel. Behind them, a long banner stretches across the scene, featuring Japanese text that includes "第8回全国伝統的な酒づくり大会" (8th National Traditional Sake Brewing Competition) and "2013年7月" (July 2013). The background shows more people and what appears to be a festive outdoor setting.

携した放送寄せられ各方面に前進され、また水産問題として外の施設・育システム会議では、なお、つ

事業へ関心が
地との調整が
したという。
日間にわたる
「閉鎖循環飼
養の原理と国内
システム」と
大학교水産流
教授の山本義
関して話題提供があつた
漁業における研究開発
について報告が行われた。
さらに、マダコ種苗生
技術の進歩—種苗放流
養殖・生産化に向けた
り組み、東北太平洋海
におけるホシガレイの
量放流と放流効果調査等

会議では、放流事業の公益性や各地の栽培機関との連携・関係構築、釣りファンのニーズに応えることなどをベースに、放流に際しては全国各地の漁協等とも調整を図りながら放流を推進していることも紹介。オンライン会議終了後には、早速各地の自治体担当者や種苗生産機関等の関係者がLOVE BLUE事業で取り組む専門機関と連絡し、各機関から閉会式へ向けての準備が進めていく。

循環システムを用いた魚養成と採卵「後付リフレッシュ」の閉鎖循環飼育システムを用いた省エネヒラメ魚養成システムの活用によるシナジー効果、「閉鎖循環冷蔵庫システム」の活用によるシナジー効果、「閉鎖循環飼育によるゾウアワビの親貝養成」、といった成果が報告された。また、水産庁の令3年度予算、各海域栽培漁業推進会議の事業進捗状況等、水産機構の栽培

取り組みを久氏が
ほか、

基調講演を行つ

基調講演を行つ
各機関から「閉
鎖循環飼育システ
ム」を用いた
「閉鎖循環冷
却と採卵」「後付
親魚の越夏対策
循環飼育による
じの親貝養成」
に成果が報告さ
れた。水産庁の令
予算、各海域裁
進会議の事業進
展、水産機構の裁
生産化に向けた
進歩—種苗放流
と放流効果調査は
話題提供があつた
るホシガレイのチ
ーク、東北太平洋海
域における研究開
発報告が行われた。
マダコ種苗生産工
場における研究開
発と放流効果調査は